



第85号

本紙は、ピースボート災害ボランティアセンターが、石巻市内の仮設住宅に向け発行・配布する無料情報紙です。毎月10日、25日発行。

釜谷観音桜の植樹

いによつて、この地に植樹

釜谷地区・大川小の先に、大きな観音様の石像があるのをご存じだろうか。流失した長谷山観音寺の跡地に、寄付によって建立されたもので、釜谷地区を見守るように建つ。その周りには、まだ若い桜の木々が、春を待ちわびながら天に向かって細い枝を伸ばしている。釜谷観音桜」と名付けられたその桜たちは、震災前この地に暮らしていた大工の阿部良助さんと、長野県戸隠の桜守 きくらもり、里野龍平さんとの出会



戸隠から提供された桜を植樹する阿部良助さん(左)

分で269本の植えたい。多くのボランティアにも参加してもらえようになり、心強い」と述べた阿部さんに続き、里野さ

んは 樹齢200年以上になる戸隠の大山桜の種から育てた、7年ものの若木を持ってきた。御霊鎮めの桜なので、植樹の前に震災で亡くなられた方々に黙とうを捧げましょう」と挨拶した。この日は里野さんを始めとする戸隠の桜守の方々の指導で、30本を植樹した。里野さんが釜谷に桜を提供することになったきっかけは、阿部さんの一言だったという。「亡くなった孫の代わりには、桜を育てたい」という言葉を聞き、自分にもできることがあるのであればという思いで始めた。269本を植え終わるまで、元気でがんばりたい。来年の春には、二人の思いと絆、そしてそれに共感した人々が植えた桜が、釜谷を明るく彩るだろう。

ピースボート あきこ

～雄勝の軌跡と今を伝える常設写真展～

『おがつのあしおと』OPEN

11月16日、ホタテ祭りにおがつの店こ屋敷に、常設写真展が誕生した。その名も雄勝メモリアル『おがつのあしおと』。企画者であり、おがつの店こ屋敷の出店者からなるおがつの店こメンバー高橋頼雄さんに話を聞いた。

続けるおがつの店こ屋敷の人たちに通ずる強い思いとなった。県外から訪れる人たちに、雄勝のこれまでの歩みと今を伝えた。震災前の街並み、震災後もここで生活してきた人たちの息遣い。これから復興事業が進み、かつての雄勝の面影がなくなってしまうとしても、この地に脈々と続いてきた人々の営みを、記録として残したい。その思いに共感した雄勝の住民やボランティア、さらにはプロのカメラマンまでが、写真が無償提供してくれた。集まった写真は数千枚にも及び、選定にも膨大な時間を要した。展示する写真は高橋さんが中心になって選び、おがつの店こ屋敷のメンバーで最終的に決定した。確認会では、仮印刷した写真の前に懐かしい話に花が咲き、大変な盛り上がりだったという。写真ってすごいと改めて感じました。思い出し話ができるように、辛い写真はあえて外し

た。集めるのに苦労した震災前や震災初期の写真も、伝手をたどって何とか入手し、震災前の写真を15枚、震災後3年半の軌跡を60枚のパネルにまとめた。雄勝の人が、それぞれの言葉で写真を解説できるように、思いを伝えられるよう、あえてキャプションは付けていない。写真は見る人によって違う。写真によっては『ここを見て欲しい!』というポイントもあつたけれど、見る人がそれぞれに感じ取ってくれればいい。あの頃の、そして今の雄勝に会いに、ぜひ足を運んでみてほしい。

ピースボート あきこ

雄勝メモリアル『おがつのあしおと』

【場所】おがつの店こ屋敷内雄勝硯生産販売協同組合事務所

【時間】9時～16時半
【定休日】毎週火曜日
【問合せ】雄勝硯生産販売協同組合 022-51571263

【場所】おがつの店こ屋敷内雄勝硯生産販売協同組合事務所

インフルエンザ対策

全国訪問
ボランティア
ナースの会
キャンパス

皆さま、こんにちは。すっかり寒い季節になりましたね。この季節に注意が必要なのが、毎年12月～3月に流行するインフルエンザです！

インフルエンザの症状

○急な発熱 38℃以上
○頭痛や関節痛、筋肉痛などの全身の症状が突然現れる。

どうやって感染？

○飛沫 ひまづ 感染：咳やくしゃみの際に口から出た小さな水滴（飛沫）にウイルスが含まれており、他者に感染する。
○接触感染：ウイルスが混じった痰や鼻水を触った手でドアノブなどを触り、それに触れた手から口などに感染する。

予防するためには？

◎マスクの着用と咳エチケット

インフルエンザの主な感染経路は、飛沫感

染。くしゃみや咳が出てい

※「咳エチケット」とは・・・

①咳やくしゃみを他の人に向けて発しない
②咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクをする

③手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗う。

また、マスク使用時には、不織布製マスクを着用すると、ウイルスを含んだ飛沫等を防ぐことができます。スローパーやコンビニ、ドラッグストアで市販されています。

◎外出後の正しい手洗い

接触感染を防ぐために有効なのが、流水・石鹸による手洗いです。汚れが落ちにくい爪の間や指の間もしっかり

かりと洗って下さい。また、インフルエンザウイルスはアルコールによる消毒でも効果が低いので、アルコール製剤による手指衛生も効果があります。インフルエンザに感染している人も、こまめな手洗いを。

その他に、適度な湿度（50～60％）を保つこと、十分な栄養とバランスのとれた栄養摂取、人混みや繁華街への外出をなるべく控えるなどが予防対策としてあります。

バイ菌が残りやすいところ



手洗いのポイント

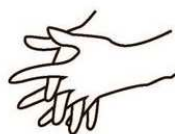
ポイント1

爪の間



ポイント2

指の間



ポイント3

親指



うに。看護師さいま
参考：厚生労働省ホームページ、政府広報オンラインホームページ

12月のイベント情報

■サン・ファン・イルミネーションツリー2014

石巻の冬の風物詩として定着している「サン・ファン・イルミネーションツリー」。サン・ファン・パウティスタの船体を約1万球の電飾とライトアップで幻想的に彩ります。

太平洋に浮かぶ黄金色の船体は必見！

日時：12月12日(金)～31日(水)

時間：日没～20時頃まで

場所：サン・ファン館ドック棟

(復元船サン・ファン・パウティスタ船体)

問合せ：サン・ファン館 (0225-24-2210)



■ふれあい朝市

安心・安全をモットーに、自慢の商品をお手頃価格でご提供♪ 野菜、鮮魚、水産加工品からスイーツまで！

日時：12月7日(日)7時～売切次第終了

場所：口マン海遊21前

問合せ：

石巻ふれあい朝市運営委員会

石巻観光協会

(0225-93-6448)



石巻市包括ケアセンター 子ども・おとな作品祭りを終えて

11月7日～9日の3日間、
石巻市包括ケアセンターで
「子ども・おとな作品祭り～みんな
秋を彩りましょう～」を開催しました。
計375名の方にお越しいただき、
大盛況の3日間となりました。
作品点数は300点を越え、
仮設住宅内外を問わず多くの方々から
作品をお寄せいただきました。
どの作品も素晴らしく、光り輝いていました。

無事に作品祭りを開催することができたのも、
準備から当日、後片付けまで
たくさんの方のご協力があったからこそと
実行委員一同感謝しております。

今回の作品祭りは、
人のつながりが次々と広がり、
本当にたくさんの方々と
作り上げたのだと思います。
笑顔に包まれた雰囲気を
実感する場となりました。
みなさんには感謝の気持ちでいっぱいです。
本当にありがとうございました。

子ども・おとな作品祭り実行委員会一同



日に日に寒さが増してきていますね。ぼくは石油ストーブのにおいが苦手で、家ではこたつに籠っています。

最近、市役所による復興住宅の事前説明会や現地見学会が開かれ、入居に向けた動きが始まっています。中には、実際に住宅を見てみたら、身体面の心配があり生活は難しいと判断されたなど、諸事情により入居を辞退されるケースがあるようです。

この「大居辞退」に対する市の方針については、色んな噂や情報の行き違いがあるようでしたので、復興住宅課に問合せたところ、①登録決定になった住宅を辞退しても、他の住宅への再応募は可能、②個人的な都合で辞退した方が再応募する際、原則として抽選時の優遇措置は適用されなくなる、との回答をいただきました。

自治連 けんたろう

「失われた街」模型復元プロジェクト

津波で失われた街を模型で復元し、そこで営まれていた人々の暮らしの記憶を収集・保存する「失われた街」模型復元プロジェクト。2011年、神戸大学建築学科の学生たちを中心が始まったこのプロジェクトでは、震災の記憶の風化防止とふるさととの記憶の再生を目的に、これまで東北のさまざまな地域でワークショップが開催されてきました。

この「記憶の街ワークショップ」は、全国の有志ボランティアが震災前の航空写真を元に制作した街並みの模型を現地に公開展示し、地域住民にその地の思い出を語ってもらいながら、彩色したドを書き込んだりして、模型を仕上げるというものです。これまでに、宮城県内6か所でワークショップが開催されました。

今年7月26日～8月1日にかけてワークショップが開催され、門脇・南浜地区、湊地区、そして中瀬の模型が完成しました。川開き祭りの期間ということもあり、街なかで行われたワークショップは大賑わいを見せていました。模型を前にして、懐かしさに目を細める人、思い出話に花を咲かせる人、笑顔になる人、涙をこぼす人・・・今はなき街並みが、その地に暮らしていた方々にさまざまな記憶と感情を呼び起こしたのでしよう。

そのワークショップの様子と地域住民の思いをまとめたTV番組が、12月5日、NHKで放送されます。また、12月6日～14日まで、完成模型の特別展が仙台で開催されます。ふるさととの記憶、街の思い出を語り、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

ベースポート あきこ



石巻での「記憶の街ワークショップ」の様子

ふるさととの記憶 みやぎ特別展

【日時】12月6日(土) 14日(日) ※8日、9日は休館

【時間】9時30分～17時30分

【場所】日立システムズホール仙台 交流ホール(仙台市青年文化センター) ※市営地下鉄「旭ヶ丘駅」より徒歩3分

NHK番組 宮城・ふるさととの記憶

【入場料】無料
【放送日】12月5日(金) 19時30分

【放送局】NHK総合(テレビ宮城県内向け)

■問合せ

NHK仙台放送局 02-2111-1016



こんにちは、北上町から日方がお届けします。すっかり寒くなりましたが、この季節の変わり目は朝も夕もきれいな景色に出会う日が増え、北上ドライブには最高のシーズンです。

北上が受けている 自然の恩恵

北上町の特産という十三浜ワカメが思いつくでしょうか。

11月はその十三浜ワカメの大切な種付けシーズンです。今年収穫分のワカメも残りわずかな時期ですが、アワビ漁の開口時期がはじまり、鮭漁もピークです。アワビを刺身で、バター焼きで

楽しみ、鮭メシにたっふりとイクラをのせていただく。そんな夢のようなごちそうが可能な時期でもあります。北上の自然の恵みに感謝せざるを得ません。



▲アワビは箱メガネと長い竿を使って採る

小学校では、卒業証書を地元のヨシを使って手作りしようという試みが始まりました。ヨシは主には屋根材に使われますが、紙にしても優しい風合いのものができます。また、北上では昔から畑の肥料に使われており、農家さんも重宝していました。田んぼの肥料に使い美味しいお米をつくる方もいます。北上川の恩恵は海のみならず、田畑の作物にもあるのです。

先人が残した 北上の財産、数多

そんな風に北上の季節を追っていくと、年間を通じて本当に北上は美味しいものに溢れています。田畑の作物や海の生産物はもちろん、海、山、川では季節折々の魚介・海藻類、山菜にきのこ、シジミなど、本当にたくさん恵みに溢れています。



▲昨年はマグロの解体ショーもありました。年の瀬は、毎年12月23日開催の「復興市」へ！

かつて、北上町では食育の里づくり事業の一環で民俗研究家の結城登美雄氏を招いて、北上町の食材を育む北上の自然と営みを調べたことがありました。結果、北上ではなんと300種類以上の作物がとれるということが分かりました。山、川、沢、田、畑、野、海、沼・・・複数の自然環境を有する北上だからこそ、それだけの食材を得ることができるとのことです。

東日本大震災により、その自然環境や営みは大きな影響を受けました。それでも、北上の人々により一歩ずつ復活への歩みを進めています。

震災後、年の瀬に北上中学校体育館で毎年「復興市」が開催されています。北上のごちそう復興の一端を見に、ぜひ遊びに来てみてください。

(パルシック ひかた)

編集後記

「おがつのあしおと」の取材を兼ねて、雄勝ホタテ祭りに行ってきました。「たまには実家に戻っちゃったりなんかしようかなあ」と目論んでいたのですが、午前10時に到着したときにはすでに長蛇の列…。一時間もしないうちに完売とのことでした。残念無念…。

しかし、震災後人口が激減してしまっている雄勝に、こんなにも多くの人が集まったというのは素晴らしいことです。空気の冷たい寒い日でしたが、温かい気持ちになりました。

ところで「おがつのあしおと」には私が撮った写真も展示されています。しかも二枚。どちらも取材中に撮影した写真です。立ち寄った際には、ぜひ探してみてくださいね。(ピースポート あき)

■仮設きずな新聞とは… ピースポート災害ボランティアセンター(PBV)が2011年10月より、石巻市内の仮設住宅に向けて発行・配布する無料情報紙。コンセプトは「仮設住宅での暮らしに役立つ情報を届ける新聞」「ココロが元気になる新聞」。毎月10日、25日発行。毎号約7,000部発行。

■仮設きずな新聞は以下の場所でも手に入ります。

あがらいん、いしのみ☆キッチン、石巻市社会福祉協議会(各支所)、石巻まちなか復興マルシェ、石巻フューチャーセンターこはく、IRORI石巻、おがつ店こ屋街、おしかのれん街、上釜会館、かめ七呉服店、からころステーション、道の駅「上品の郷」、宮城クリニック、復興ステーションBAPPA、浜友、HANA荘、復興大学、ヤフー石巻復興ベース、遊楽館、ピースポートセンターいしのみまき

■「仮設きずな新聞」編集部 所在地

ピースポートセンターいしのみまき(10:00-18:00/金曜日・祝日定休)

〒986-0824 石巻市立町1丁目5-21(ことぶき町通り商店街内)

TEL:0225-25-5602 FAX:0225-25-5603 Email:kasetsukizuna@pbv.or.jp

■発行元 ピースポート災害ボランティアセンター(PBV)

■協力 石巻仮設住宅自治連合推進会/石巻専修大学 復興共創研究センター/キャンパス東北/震災こころのケア・ネットワークみやぎ/街づくりまんぼう/復興大学

■編集長 岩元 暁子

■配布統括 田上 琢磨

■デザイン 矢野 瑛子/妙本 咲季

■編集委員 伊東 孝浩/苅谷 智大

高柳 伸康/西村真由美

西本健太郎/野津裕二郎